



県高校駅伝で清谷くんと大下くんが区間賞 全国高校駅伝の切符をつかむ

▲清谷くん(左)と大下くん(右)。3年生の2人は卒業後、箱根駅伝という夢に向かって走る。

クローズ CLOSE UP アップ 話題の人に迫る

広島県高校駅伝が11月5日、みよし運動公園陸上競技場を発着点とするコースで行われ、市出身者の清谷匠くん(板橋)と大下徹くん(総領)が区間賞の走りで世羅高校を優勝に導いた。

世羅高校は全7区間で区間賞を独占するなど、常にトップを独走。4区を走った清谷くんは区間新記録の快走を見せ、アンカーを走った大下くんは2位の近大福山高校に3分以上の大差をつけ、ゴールテープを切った。

「全国高校駅伝に出場することが最低限の目標だったので、ほっとしている。区間新記録は12月上旬。岩本監督は1区

録は意識していなかったが、チームのために自分の責任を果たせてうれしい」と清谷くん。主将としてチームを引っ張った。また、大下くんは「優勝してうれしかったが、自分の思い通りの走りができなかったので、悔しさも半分ある」と、高いレベルを追い求める。

世羅高校の陸上部員は54人。朝練習は6時から始まり、7キロ走と筋力トレーニング。夕方は約2時間の練習で14キロを走るなど、毎日20キロ以上を走り込む。きつい練習も、全国制覇という高い目標が支えている。

昨年、世羅高校は全国高校駅伝で準優勝。6区を走った清谷くんは「チームは準優勝したが、緊張で自分の走りができず悔しい思いをした」という。今年はいんターハイで8位に入賞し、また国体にも出場するなど、全国レベルの大会で経験を積み自信をつけている。岩本真弥監督も「無駄のない積極的な走りで、スピードがある。主将としてチームをひっぱり上げる人間性が魅力」と全幅の信頼を寄せる。

全国大会のメンバーの提出

熱い声援を送ろう。

清谷くんは「目標は優勝。みんなが力を出し切れば、チャンスがある。3年間やってきたことを全部出し切りたい」。また、「僕たちの原点は庄原。ふるさとへの感謝の気持ちを持って、皆さんに応援してもらえるような走りがしたい」と大会への抱負を語る。

全国大会に向け、岩本監督は「まずは故障なく万全な状態で臨みたい。成績は後からついてくる」と話す。

全国大会で勝つには、部員一人ひとりが高い意識を持つことが大切。「普段の生活から日本一。当たり前前」などを当たり前にする」など、部員全員が全国トップレベルの生活態度を心がける。

のジョセフ・ギタウくん、3区の笠坂くん、4区の清谷くん以外はメンバーを決めていないという。残り4人のメンバーの座を狙って15人ぐらいたが横一線に並ぶ。大下くんは強豪校ならではの激しいメンバー争いに挑んでいる。